

■開催概要

- 大会名称 : 2024 Porsche Carrera Cup Asia Round 3&4 / 2024 鈴鹿クラブマンレース Round 2
- 主催 : 2024 Porsche Carrera Cup Asia Round 3&4: 鈴鹿モータースポーツクラブ (SMSC)・
ホンダモビリティランド株式会社
2024 鈴鹿クラブマンレース Round2: オートスポーツクラブアツタ (AASC)・
鈴鹿モータースポーツクラブ (SMSC)
- 後援 : 鈴鹿市、一般社団法人鈴鹿市観光協会 (FEクラス)
- 協力 : ARC、ARC.N、KRHC、チーム淀、OCCK
- 競技 : JAF公認 準国内競技
- 会場 : 鈴鹿サーキットレーシングコース フルコース (5.807km)
- 開催クラス : 総参加台数 / 125台
Porsche Carrera Cup Asia / 27台
VITA / 26台
v.Granz / 11台
フォーミュラEnjoy / 14台
スーパーFJ / 30台
BMW & MINI Racing / 17台
- 開催日 : 2024年5月11日 (土)・12日 (日)
- 天候・路面 : 5月11日 (土) 晴・ドライ、12日 (日) 曇→雨・ドライ→ウェット



★レースリザルトはインターネットでご覧いただけます。
https://www.suzukacircuit.jp/result_s/2024/clubman/

■次回レース開催概要

- シリーズ名称 : 2024鈴鹿クラブマンレースRound 3
- 開催日 : 2024年6月15日 (土)・16日 (日)
- 主催 : ARC、SMSC
- 会場 : 鈴鹿サーキットレーシングコース フルコース (5.807km)
- 開催クラス : スーパーFJ、FIT、フォーミュラEnjoy、VITA・v.Granz (120分耐久)



12日 (日)、トップバッターとして8時30分に決勝レースがスタートしたフォーミュラEnjoy。マイスターズ・カップを制した亀蔵の健闘が印象的だった

ポルシェ カレラ カップ アジアも行われた鈴鹿クラブマンレース第2戦 100台以上が鈴鹿に集結した!

鈴鹿クラブマンレース第2戦が5月11日(土)、12日(日)の両日、鈴鹿サーキットフルコースにて開催された。

「2024 鈴鹿クラブマンレース Round2」とともに行われたのが「2024 Porsche Carrera Cup Asia Round 3&4」。ポルシェカレラ911を使った世界でも最高峰のワンメイクレースとして、アジアの各サーキットを転戦する。27台のドライバーは11日(土)にRound3、12日(日)はRound4と2レースを無事に戦い終えた。印象的だったのはポルシェカレラ911に施されたひときわ目を惹くオリジナルのカラーリング。普段、鈴鹿クラブマンレースに参戦している国内ドライバー、さらに海外ドライバーとチームもサーキットで火花を散らし、いつも以上ににぎやかで華やかなレースウィークになった。

また、エンタメ型モータースポーツとして注目を集めるBMW & MINI Racingも開催され、17台のBMW、そしてNew MINIがエントリー。BMWを使ったM2 CS Racing Seriesと、New MINIを使うJCWクラス、CPSクラスの混走で行われたレースは、Race1&2とも各集団でバトルが見られ、見ごたえ充分なものに。さらに、訪れたBMWとNew MINIファンは決勝レース開始前に行われたグリッドウォークも満喫。レース開始前、緊張感の高まる中、お目当ての車両とドライバーをすぐ近くで感じることができた。

フォーミュラEnjoy、VITA、v.Granzクラスはいずれも決勝レースは優勝ドライバーがポールtoウィンを果たしたが、レース展開自体は12日(日)のお昼前から降り出した雨の影響を受け、どれも難しいものばかり。セーフティーカーランも頻繁に行われた状態で、雨を味方につけたドライバーに軍配が上がるようになった。

次戦、鈴鹿クラブマンレース第3戦は6月15日(土)・16日(日)に開催予定。恒例となった120分耐久など、見どころの多いレースが予定されている。



2024 Porsche Carrera Cup Asiaは、911カレラを使ったワンメイクレース。鈴鹿サーキットではRound3&4の計2戦が行われた。写真はRace2のスタート前。ポールポジションを獲得した#55 Alessandro GHIRETTIが勝利した。

■フォーミュラEnjoy class

2番グリッドの中島一郎がホールショットを奪う好スタート。中島をポールシッターの樋尻勝利、さらに安田知弘が追う。中島は1周目にスピンを喫い、これで樋尻がトップへ。2番手にマイスター・クラスの亀蔵がつける見事な走りだ。3番手に前田公孝、中島は4番手で続く。5周を終える頃、中島は前田、亀蔵を順にパスして2番手へ。トップの樋尻を猛追するかに思われた矢先、後方を走るマシンのクラッシュによりセーフティカーが導入。そのままチェッカーを受けることになり、樋尻がウィナーとなった。



樋尻勝利はスタート直後こそ中島一郎にトップを譲ったものの、最終的には見事にポールtoウィンを決めた



1位は樋尻勝利、2位は中島一郎、3位には亀蔵となった。中島は後半、見事な追い上げでレースを盛り上げた



■フォーミュラEnjoy class ※マイスターズ・カップ



マイスターズ・カップの優勝は亀蔵。2位は柏森雅勝、3位は多屋貞一となった。亀蔵は総合でも3位につける健闘を見せた

■VITA Class

ポールポジションから中里紀夫がスタート。続いて増本千春、大崎達也、中島僚斗が追う展開になり上位に大きな変動はない。2周目、コースアウトを喫したマシンがありセーフティカーが導入される。レースは中里を先頭にして残り3周でリスタート。中里に対して2番手の増本が懸命に追うものの、むしろ3番手の大崎が増本との差を詰めてくる。終盤、トップ集団に大きなバトルはなく中里がポールtoウィンで逃げ切った。総合9番手のGAMISANがジェントルマン・クラスのトップとなった。



途中、セーフティカーランもあった難しい展開のなか、中里紀夫がポールtoウィン。レース運びの上手さが光った



1位は中里紀夫、2位には増本千春、3位は中島僚斗。増本、中島とも中里を追ったが届かなかった



■VITA Class ※ジェントルマン・クラス



ジェントルマンクラスはGAMISANが優勝。2位は大野宗、3位は木村一廊

■スーパーFJ Class/Race1

午後一番の決勝レースとなったRace1、弱い雨が降るなかでレースはスタート。ポールポジションは八巻渉、2番グリッドは迫隆眞、渡会太一、小田優の上位陣はオープニングラップから白熱のトップ争いを見せ、迫を先頭にして2周目へ。次第に強くなる雨の影響がコースアウトしたマシンがあり、5周目でセーフティカーランとなる。この時点でトップは八巻、迫、小田がトップ3を形成。雨は弱まる気配はなく、セーフティカーランが継続され8周を消化。9周目で赤旗提示がなされ、レースは終了。一時は迫にトップを譲ったが、早々に奪い返した好判断もあり、レースは八巻がポールtoウィンを決めた。



ポールシッターの八巻渉が勝利。この日は自身の誕生日だったこともあり、見事なパースデーウィンを決めた



優勝した八巻渉、2位は迫隆眞、3位には小田優となった。迫は一時、トップを走る場面もあったが及ばなかった

■スーパーFJ Class/Race1 ※ジェントルマン・クラス



ジェントルマン・クラスの優勝は山根一人。2位は中嶋匠、この日でレース引退を宣言している太田浩の3人が表彰台に登壇した

■v.Granz Class

関正俊がポールポジションを獲得してレースはスタート。2番グリッドのMichael Huangはスタートが切れないトラブルに見舞われる。関は見事にホールショットをゲットすると、いむらせいじが2番手へ。金久憲司、OOKA、長谷川睦と続く。2番手に立った金久だったが、レース終盤でOOKAが金久をオーバーテイク。さらに前を走る関との差をじわじわと詰める見事な走りを披露する。だが、序盤から築いた差は大きく関がポールtoウィン。前回レース2位だった雪辱を果たした。



レース前に雨は止み、路面は次第にドライコンディションへ。多くのマシンがスリックタイヤでレースに挑んでいた



ポールtoウィンの関正俊、2位はOOKA、3位は金久憲司。終盤にかけてOOKAの猛追は見応えがあった

■スーパーFJ Class/Race2

Race1の結果を受け、上位6番まではリバースグリッドを採用。その結果、ポールシッターには板倉慎哉、2番グリッドに渡会太一、続いて松本拓海、小田優、迫隆真、八巻渉の上位陣でレースはスタート。渡会が見事にホールショットを奪うと、1周目で太田浩が無念のコースアウト。早くもセーフティカーランとなる。渡会を先頭に松本、迫、小田、板倉、八巻の順でセーフティカーランは続き、レースは6周目を消化。レース前に止んだかに思われた雨だったが、レースが進むにつれ激しくなる。渡会を先頭にしてリスタートされると、迫と小田が激しい2番手争いを見せる。9周目、4番手を走る松本がまさかのクラッシュ。再びセーフティカーランとなり、渡会、迫、小田の順でチェッカーを受けた。



Race2で勝利したのは2番グリッドスタートの渡会太一。セーフティカーランが解除された後のリスタートも見事だった



優勝した渡会太一、2位の迫隆真、3位の小田優。迫と小田は最終版、2番手を争いバトルを繰り広げた

■スーパーFJ Class/Race2 ※ジェントルマン・クラス



ジェントルマンクラスの優勝は総合17番手の中嶋匠、2位は総合19番手だった山根一人

■BMW & MINI Racing Round2 (Race1／Race2)

日本国内で唯一となる、BMW Group Japanのオフィシャルレース「M2 CS Racing Series」とNew MINIのみで行なわれるワンメイクレース「MINI CHALLENGE JAPAN」を共催するカーレースシリーズ。全6ラウンド、決勝2レース制の12戦で行われるシリーズは、Round1が4月初旬に富士スピードウェイで行われており、鈴鹿クラブマンで行われる今回Round2では、12日(日)午前9時30分から第3戦(Race1)、15時30分に第4戦(Race2)を実施。ホスピタリティも充実していたこのレースでは、多くのBMWとMINIファンがサーキットとレースを楽しんだ。



第4戦(Race2)のM2 CSRクラスで優勝した#25田中瑞起。Race2はセーフティカーも導入される荒れた展開になった



第4戦(Race2)、M2 CSRクラスの表彰式。優勝は田中瑞起、2位に片山剛、3位は神頭政志の順になった

■BMW & MINI Racing Round2 (Race1／Race2)



第4戦 (Race2)、JCWクラスの優勝は山本聖渚、2位に木村建登、3位いとうりな。3台に大きな差はなく熱いバトルが見られた



第4戦 (Race2)、CPSクラスの優勝は中澤卓也、2位はジュンクーパー、3位には小迫美代子が入った

Voice of Pick up Driver & Team

この日、キラリと光った
ドライバーに一問一答

この日、キラリと光ったドライバー&チームに一問一答
「Voice of Pick up Driver&Team」。

v.Granzクラスをポールtoウィンで制し連覇に弾みをつけた。

関 正俊 選手



Q: 予選から振り返っていただけますか

「金曜日の練習走行から調子が良く、最後まで持続させることができました。去年から乗っているクルマで、どんどんとクルマと自分が合っている感覚があります」

Q: 決勝前のグリッド上でタイヤ交換を行っていましたね

「レインからスリックに変えてレースに入りました。オープニングラップを終える頃に、トップである程度、後ろと差を広げられたらという狙い通りになったことが大きかったです」

Q: 前回レースは2位でしたが雪辱ができました

「しっかりと優勝できたことはうれしい。2023年のシリーズチャンピオンとして目標は連覇すること。シリーズ前半は良い形で戦えていると思います」